

2012年6月11日

日本共産党東京都議会議員団

## 都内の放射能汚染問題に関する申し入れ

日本共産党都議団は、今年2月～6月に主に東京の臨海部から東部地域にかけての空間放射線量及び土壌の放射性核種濃度測定等を行い、別紙「都内の放射能汚染調査結果について」にまとめました。

全体として、空間放射線量は昨年と比べて減っているものの、雨水が流れ込み溜まり易く水はけの悪い地点では、上昇ないしひき続き比較的高い測定値が出ています。土壌については、街路樹の植込みや雨水が流れ込み水はけの悪い箇所などで、1キログラムあたり8千ベクレル以上の高濃度放射性物質が散在しており、特定箇所に放射性物質が蓄積・集中していることが明らかになりました。

とりわけ葛飾区の都立水元公園において、地上1メートル高で空間放射線量が毎時1.10マイクロシーベルトの地点、1キログラムあたり25万1千ベクレル、11万2千ベクレルという放射性物質が測定された土壌があったことは重大です。

これまで私たちは、具体的な測定値を示しながら、くり返し、きめ細な測定と除染・対策を求めてきました。特に水元公園については、今年2月の調査で2万ベクレルを超えた土壌があったことも示し、土壌、落葉などの処理については万全の対策をとることなどを求めてきました。

ところが東京都は、東部のわずか3つの公園のサンプリング調査だけで、地上1mで毎時1マイクロシーベルトを超えるところはない、ホットスポットからわずかに離れるだけで大幅に線量が減衰するなどと言って、きめ細かな測定と除染を拒否してきました。今回の調査結果は、都のこうした対応の誤りを明白に示すものです。

水元公園では、植込み内に、落葉や腐葉土、木質チップ、側溝や池から取り出した泥のようなものをあちこちに不用意に積み重ねた形跡があり、これらが高線量を出している元になっていた事実は、都の管理責任が問われるものです。

しかもわが党が、地上1メートルで毎時1.10マイクロシーベルトという文科省の基準に照らしても当然除染すべき地点が明らかになったことを通告したにもかかわらず、人が近づけないよう措置すらせずに放置していることは、許されません。

今回明らかになった各高濃度箇所は、子どもたちが頻繁に使用する公園であったり、多くの人たちが日常的に行き交う歩道の植込み内、道路脇の側溝上部などで、決して特殊な所ではありません。こうした地点が他にもかなりある可能性が極めて高いといえます。

よって日本共産党都議団は、東京都がすみやかに以下の事項を実施するよう強く求めるものです。

## 1. 葛飾区水元公園について

▽25万1千ベクレルが測定されるなど、極めて高濃度の放射性物質を含んでいるいわゆる「黒い土」は、乾燥するとくずれて細かな粉状になりやすいため、風などで空中に飛散し、呼吸によって体の中にすいこみやすいため、ただちにくまなく調査し除染すること。

▽空間放射線量が地上1メートルで1.10マイクロシーベルト、土壌が11万2千ベクレルが測定された地点は、立ち入り制限、標識、飛散防止、流出防止、周辺住民への周知などしたうえで、除染をはじめ都民への放射線の影響をくいとめるあらゆる措置を、直ちにとること。同種の土壌が積み重ねられ、高線量が測定される地点についても、同様の措置をとること。

▽公園内の土壌、落葉、木質チップなどの再利用は中止すること。

▽都民などの通報についても受け付ける体制をつくり、その対応内容と結果について、公表すること。

## 2. 全都有施設について

▽公園、学校、都営住宅など全都有施設について、きめ細かな空間放射線量、土壌の放射性核種濃度測定をおこない、公表すること。

▽1キログラムあたり8000ベクレルを超える土壌などがある高線量箇所については、都として除染、拡散防止策、継続的な測定をおこなうなど、子どもたちへの被ばくを防止する責任ある対策をとること。

## 3. 街路樹の植込み、側溝内、駐車場・空き地・街路脇に溜まった土壌などについて

▽区市町村とともに、街路樹の植込み内、側溝内、駐車場・空き地・街路脇などの放射性物質がたまりやすい所の測定を徹底すること。それらに溜まった土壌などについては、花壇、街路樹の植込内への処分を中止するよう、都民、業者への広報を徹底するとともに、都として責任もって処分できるようにすること。

▽都民からの情報提供を受け付ける体制を取り、都民、区市町村と一体となって放射線測定をおこなうこと。

## 4. 放射能対策機関設置について

▽いわゆる「黒い土」について、都有地内にあるものについては、直ちに取り除くこと。専門家に調査を依頼し、早急に対策をとること。

▽科学・技術の専門家、民間企業、区市町村、都民の知恵と力を総結集し、都民への放射線による影響をおさえる対策を推進するための放射能対策機関を設置すること。

以上

## 都内の放射能汚染調査結果について

2012年6月11日

日本共産党東京都議会議員団

**調査対象** 1時間当たりの空間放射線量（マイクロシーベルト）と土壌などの1キログラムあたりの放射性核種濃度（Cs134+Cs137）（ベクレル）

**調査地点** 空間放射線量 = 116地点（1年前の測定点を、できる限り抽出した）  
土壌の放射性核種濃度 = 55地点。（都民が日常生活の中で接しやすい場所を中心に測定地点を選んだ）

**調査日** 2月15日、3月2日～4日、5月4日～6月10日

**調査目的** 都内の放射能汚染が、今でも高レベルの所があるとの報告を都民から受け、被災から1年後のホットスポットと思われる土壌汚染状況について、都民の間で共通認識にできるように、出来る限り広範囲に測定すること。

1年前と比較して、放射線量の減衰傾向を見ること。

### 結果について

**土壌の放射性核種濃度が4万Bq/kg以上の地点が6地点、最高値は251,000Bq/kg**

住所	濃度(Bq/kg)	備考
1 葛飾区水元公園	251,000	第2駐車場内のいわゆる「黒い土」
2 葛飾区水元公園	112,000	公園の植込み内
3 江戸川区平井3丁目	55,000	団地内空地の隅。公園、保育園が近接。
4 葛飾区東金町8-24	49,700	江戸川土手下にある施設
5 葛飾区西水元1丁目	44,300	民家出入口の街路脇
6 墨田区八広6丁目	42,400	荒川の河川敷内の道路脇

高濃度の土壌が測定された葛飾区水元公園の「黒い土」は、第2駐車場内に分布している。植込み内の土は、落葉、公園内の清掃時に回収した側溝、池の泥、腐葉土と思われるようなものが積み盛られたもので、同公園内では他所にも見受けられ、その空間放射線量は格段に高い。放射性物質の凝集、濃縮が疑われる。

8000Bq/kg以上の地点は、34地点。中央区、港区、墨田区、江東区、荒川区、足立区、葛飾区、江戸川区に分布していた。

これらの地点に共通しているのは、都民が日常的に利用している場所であり、雨水が流れ込み溜まり易く、かつ水はけの悪いことである。こうした地点については、除染をしないかぎり、放射性セシウムが蓄積・集中し、単純に時間が経てば拡散・減少す

ると見ることはできないと考えられる。こうした地点の一つである葛飾区東金町のポンプ場入口は、昨年7月の測定では空間線量が1m高で0.37 $\mu$ Sv/h、5cm高で1.14 $\mu$ Sv/hだったが、今回の測定で0.38/1.50、土壌の汚染濃度は49,700Bq/kgだった。

**地上1m高の空間放射線量は、1年前と比較し50～60%程度に減衰している地点が最多**

	1年前と比較した線量の割合	箇所数（割合）
地上1m高	50%以下に減衰	11（18%）
	50～60%に減衰	21（35%）
	60～70%に減衰	16（27%）
	70～100%に減衰	6（10%）
	減衰していない	6（10%）

大きく減衰している地点の特徴は、もともと追加被ばく線量が少量、多くの人たちが踏み入れている地面上、雨などが溜まらず流れやすい所である。

雨水が流れ込み溜まり易く、かつ水はけの悪い地点では、減衰せず、上昇している。

**除染を進めてきた保育園・幼稚園では、50%以下に減衰している地点が最多。**

	1年前と比較した線量の割合	箇所数（割合）
地上1m高	50%以下に減衰	4（44%）
	50～60%に減衰	3（33%）
	60～70%に減衰	1（11%）
	70～100%に減衰	1（11%）
	減衰していない	0（0%）
地表面	50%以下に減衰	9（60%）
	50～60%に減衰	2(13%)
	60～70%に減衰	1(7%)
	70～80%に減衰	2(13%)
	80～90%に減衰	1(7%)

上記表は除染後の数値と比較したが、除染前との値を比較すると50%以下に減衰している地点は、さらに増える。

以上

**< 高濃度の放射線が検出された土壌を採取した主な地点 >**

1-1. 葛飾区水元公園第2駐車場の「黒い土」(0.27/1.99 $\mu$ Sv/h 251,000Bq/kg)



1-2. 第2駐車場の「黒い土」の拡大写真





2 . 水元公園の第 2 駐車場 ( 1.10/7.60  $\mu$  Sv/h 112,000Bq/kg )



3 . 江戸川区平井 3 丁目 ( 団地内空地 ) ( 0.32/2.61  $\mu$  Sv/h 55,500Bq/kg )



4 . 葛飾区東金町 (ポンプ場) (0.38/1.50  $\mu$ Sv/h 49,700Bq/kg)

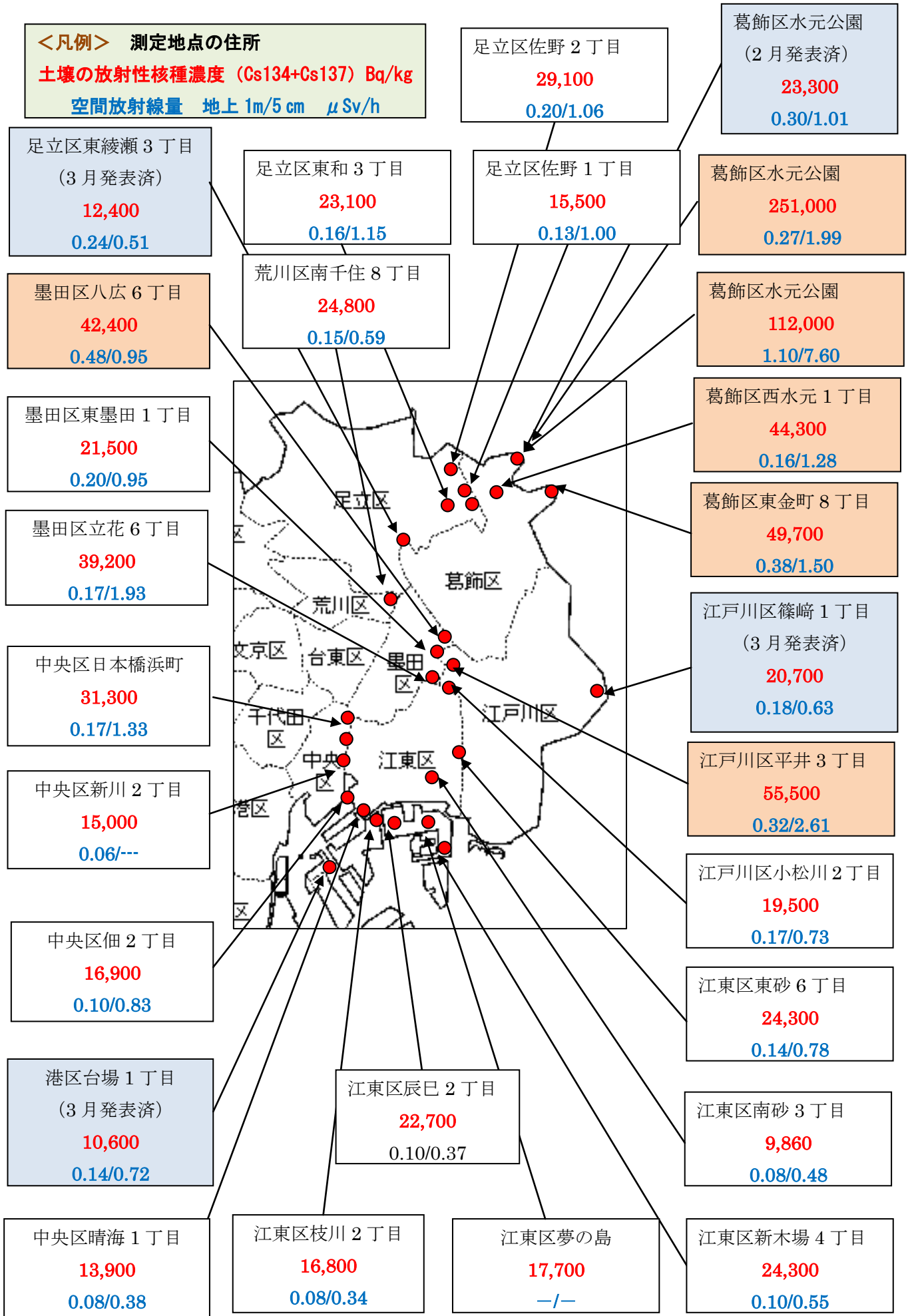


5 . 墨田区八広 6 丁目 (0.48/0.95  $\mu$ Sv/h 42,400Bq/kg)





都内臨海部・東部地域の放射線測定結果から





## 土壌採取地点と放射線量

〈日本共産党都議団調査 資料2〉

	調査地点	備考	空間線量 ( $\mu\text{Sv/h}$ )		土壌濃度 (Bq/kg)
			1m	5cm	平均
1	中央区日本橋浜町	浜町公園内植込み	0.17	1.33	31,300
2	中央区新川1丁目	リバーサイド植込み	0.15	0.53	2,600
3	中央区新川2丁目	歩道脇の土壌	0.06	—	15,000
4	中央区佃2丁目	空地植込み	0.10	0.83	16,900
5	中央区晴海1丁目	歩道脇の土壌	0.08	0.38	13,900
6	江東区枝川2丁目	歩道脇の土壌	0.08	0.34	16,800
7	江東区辰巳2丁目	歩道脇の土壌	0.10	0.37	22,700
8	江東区新木場4丁目	歩道脇の土壌	0.10	0.55	24,300
9	江東区夢の島	歩道脇の土壌	—	—	17,700
10	江東区南砂3丁目	歩道脇の土壌	0.08	0.48	9,860
11	江東区東砂6丁目	土手民家側の植込み	0.14	0.78	24,200
12	江戸川区小松川1丁目	河川敷	0.18	0.79	16,500
13	江戸川区小松川2丁目	歩道植込み内土壌	0.17	0.73	19,500
14	江戸川区平井3丁目	都営団地空地	0.32	2.61	55,500
15	墨田区立花6丁目	道路脇土壌	0.17	1.93	39,200
16	墨田区東墨田1丁目	歩道植込み内土壌	0.20	0.95	21,600
17	墨田区八広6丁目	河川敷	0.48	0.95	42,400
18	荒川区南千住8丁目	公園駐車場脇	0.15	0.59	24,800
19	足立区東和3丁目2	雨樋下の土壌	0.16	1.15	23,100
20	足立区佐野2丁目	歩道植込み内土壌	0.20	1.06	29,100
21	足立区佐野1丁目-4	道路脇土壌	0.13	1.00	15,500
22	足立区大谷田1-1	団地内花壇の土壌	0.22	0.60	3,530
23	葛飾区西水元1丁目	道路脇土壌	0.16	1.28	44,300
24	葛飾区東金町8-24	ポンプ場入口土壌	0.38	1.50	49,700
25	葛飾区水元公園内	通路土壌	0.31	0.76	20,900
26	葛飾区水元公園内	植込み内土壌	1.10	7.60	112,000
27	葛飾区水元公園内	第2駐車場内の「黒い土」	0.27	1.99	251,000
39	江戸川区瑞江2丁目	歩道植込み内土壌	0.17	0.23	3,300
29	江戸川区北小岩3丁目	歩道植込み内土壌	0.19	0.41	1,800
30	葛飾区堀切2丁目	空地植込み	0.11	0.13	1,800
31	江東区清澄2丁目	歩道植込み内土壌	0.10	—	2,300
32	江東区豊洲6丁目	歩道植込み内土壌	0.08	0.15	4,700
33	江東区亀戸8丁目	歩道植込み内土壌	0.11	0.14	1,100
34	中央区晴海4丁目交差点	歩道植込み内土壌	0.08	0.11	600
35	練馬区南大泉3丁目	駐車場土壌	0.07	0.08	550

## 土壌採取地点と放射線量

〈日本共産党都議団調査 資料2〉

	調査地点	備考	空間線量 ( $\mu\text{Sv/h}$ )		土壌濃度 (Bq/kg)
			1m	5cm	平均
36	小平市中島町21	歩道植込み内土壌	0.05	0.05	690
37	あきる野市館谷	駐車場土壌	0.08	0.10	920
38	昭島市松原4丁目	空地植込み	0.06	0.09	30
38	町田市能ヶ谷	空地植込み	0.06	0.06	70

◆測定者 日本共産党都議団

◆測定器と測定方法

○空間放射線量 ALOKA PDR-101型 ポケットサーベイメーター

2011年5月は、表示数値を10秒間隔で10回読み取り平均値を算出した。

2012年5月は、AEMモードで1分間計測（積算計数値を経過時間で割り算）

○土壌の放射性核種(Cs134+Cs137)濃度 ベルトールドジャパン LB2045

各箇所ので表面1cm～2cm程度を土壌、約400mlを採取

測定器の使用基準に従い毎日、校正、バックグラウンド補正を行った上で、各サンプルを20分間、3回測定した平均値（有効数字3桁とした）。

### 〈発表済みの測定結果から8000Bq/kg以上の地点を抽出〉

(1)2012年2月21日発表の水元公園内の調査結果

	調査地点	備考	空間線量 ( $\mu\text{Sv/h}$ )		土壌濃度 (Bq/kg)
			1m	5cm	測定値
1	葛飾区水元公園	メタセコイアの森表面土壌	0.30	0.51	7,770～9,340
		ドッグラン南東側土壌	0.30	1.01	13,300～14,000
		野鳥観察舎入口の土壌	0.24	0.80	21,700～23,300
		第一駐車場南側植込内	0.74	1.54	5,320～8,290

(2)2012年3月15日発表の江戸川周辺、臨海部、足立区の調査結果

	調査地点	備考	空間線量 ( $\mu\text{Sv/h}$ )		土壌濃度 (Bq/kg)
			1m	5cm	平均値
1	足立区東綾瀬3丁目	東綾瀬公園	0.24	0.51	12,400
2	江戸川区東小岩3丁目	江戸川河川敷	0.39	0.86	12,500
3	江戸川区篠崎1丁目	江戸川河川敷	0.16	0.75	13,700
4	江戸川区篠崎1丁目	江戸川土手下民家側	0.18	0.63	20,700
5	港区台場1丁目	街路樹植込み内	0.14	0.72	10,600

◆測定者 日本共産党都議団

◆測定器と測定方法

○空間放射線量 ALOKA PDR-101型 ポケットサーベイメーター

2011年5月は、表示数値を10秒間隔で10回読み取り平均値を算出した。

○土壌の放射性核種(Cs134+Cs137)濃度 ベルトールドジャパン LB2045

各箇所ので表面1cm～2cm程度を土壌、約400mlを採取

測定器の使用基準に従い毎日、校正、バックグラウンド補正を行った上で、各サンプルを20分間、3回測定した平均値。有効数字3桁とした。

都内の空間放射線量(2011年5月と2012年5月の比較)

<日本共産党都議団調査 資料3>

No.	住所	場所	備考	空間線量(1m高/5cm高)			減衰度		
				2011年5月		2012年5月	1m高	5cm高	
1	千代田区神田駿河台	御茶ノ水橋南詰		0.10		0.06	0.15	34%	
2	新宿区西新宿2丁目	都庁第一本庁舎北西側交差点		0.11		0.08	0.09	57%	
3	新宿区西新宿2丁目	都庁第一本庁舎西側道路		0.14		0.10	0.11	60%	
4	新宿区西新宿2丁目	新宿公園東側道路		0.11		0.07	0.08	46%	
5	町田市能ヶ谷	小田急線鶴川駅前公園		0.06		0.06	0.06	100%	
6	新宿区早稲田鶴巻町	都バス早稲田BS		0.11		0.08	0.12	61%	
7	新宿区西新宿1丁目	都バス新宿西口BS(早稲田行)		0.07		0.06		77%	
8	中央区築地	築地市場正門		0.09		0.07	0.09	60%	
9	中央区築地	築地四交差点		0.09		0.07	0.10	60%	
10	中央区築地	築地市場勝鬨門		0.09		0.07	0.08	58%	
11	中央区勝どき	勝どき駅前交差点		0.10		0.07	0.09	51%	
12	中央区晴海	晴海三交差点		0.10		0.08	0.11	62%	
13	中央区晴海	晴海大橋南詰交差点・南		0.11		0.08	0.15	54%	
14	江東区豊洲5丁目	豊洲駅前交差点		0.11		0.07	0.10	43%	
15	大田区天空橋	駅前	アスファルト上	0.09		0.06	0.05	37%	
16	同上	駅前	草地	0.08	0.15	0.09	0.09	125%	45%
17	大田区多摩川台公園	公園	草地	0.06	0.08	0.05	0.07	50%	75%
18	江東区清澄3丁目	清澄公園	中央部砂地	0.11		0.10	0.18	85%	
19	江東区清澄3丁目	清澄公園	草地	0.13	0.14	0.10	0.14	67%	100%
20	江東区住吉2丁目	猿江公園	砂地上部	0.13		0.08	0.12	42%	
21	江東区住吉2丁目	猿江公園	草地	0.17	0.23	0.12	0.15	62%	58%
22	江東区亀戸8丁目	亀戸公園A地区	時計塔北西部土	0.19		0.11	0.13	48%	
23	江東区亀戸9丁目	亀戸公園B地区	時計塔下草地	0.17	0.26	0.13	0.17	69%	59%
24	足立区千住曙町	荒川日ノ出町緑地	堤防上部草地	0.16		0.11	0.15	61%	
25	足立区千住曙町	荒川日ノ出町緑地	同地表面	0.19		0.15	0.16	73%	
26	葛飾区堀切2丁目	堀切菖蒲園付近	カラーブロック上	0.16	0.18	0.11	0.13	58%	64%
27	足立区東綾瀬5丁目	東綾瀬公園訓練校東側	木製ベンチ		0.18		0.09		36%
28	足立区東綾瀬6丁目	野球場センター側外	草地	0.26	0.37	0.16	0.21	55%	52%
29	足立区東綾瀬6丁目	バックネット裏	草地	0.20		0.13	0.15	55%	
30	足立区東綾瀬3丁目	プール北西部	草地	0.24		0.12	0.11	40%	
31	葛飾区水元公園3	水元公園入口	草地	0.36	0.62	0.24	0.47	63%	74%
32	葛飾区水元公園3	葛飾区水元公園噴水広場付近	コンクリート上	0.28	0.33	0.18	0.27	58%	79%
33	葛飾区水元公園3	水元大橋西側	草地	0.34		0.21	0.23	56%	
34	葛飾区水元公園3	水元大橋東側	植木上部	0.37		0.21	0.35	52%	
35	葛飾区水元公園3	花菖蒲広場ステージ前	芝生	0.39	0.51	0.21	0.24	49%	43%
36	葛飾区金町浄水場	北側緊急出入口	植え込み	0.28		0.18	0.34	58%	
37	葛飾区金町浄水場	東側江戸川土手	草地	0.30		0.18	0.23	54%	
38	江戸川区北小岩3丁目	千葉街道歩道上	アスファルト上/植込内	0.15	0.17	0.19	0.41	136%	285%



都内の空間放射線量(2011年5月と2012年5月の比較)

<日本共産党都議団調査 資料3>

No.	住所	場所	備考	空間線量(1m高/5cm高)				減衰度	
				2011年5月		2012年5月		1m高	5cm高
39	江戸川区上篠崎4丁目	篠崎公園B地区入り口付近	土壌上	0.25		0.20	0.27	75%	
40	江戸川区臨海6丁目	葛西臨海公園	第3駐車場中央	0.16		0.11	0.13	59%	
41	江戸川区臨海6丁目	葛西臨海公園	同南側木草地	0.18		0.15	0.20	78%	
42	江戸川区臨海6丁目	葛西臨海公園	展望広場	0.16		0.11	0.18	58%	
43	杉並区高円寺北1丁目	民家庭	地面	0.06		0.05	0.05	59%	
44	練馬区練馬1丁目	文化センター南側	植え込み	0.10		0.07	0.09	52%	
45	西東京市下保谷	保谷駅北口ロータリー	植え込み	0.07		0.06	0.06	65%	
46	練馬区南大泉3丁目	駐車場	砂利	0.07		0.07	0.08	87%	
47	東村山市	東村山駅東口ロータリー	植え込み	0.08		0.06	0.08	53%	
48	東村山市	東村山駅西口ロータリー	植え込み	0.07		0.06	0.07	60%	
49	小平市	小平駅ホーム		0.07		0.05	0.08	40%	
50	東大和市	東大和市駅南側	植え込み	0.06		0.05	0.05	44%	
51	東大和市	東大和市駅北口ロータリー	植え込み	0.07		0.06	0.05	58%	
52	青梅市	青梅駅前駐車場	アスファルト上	0.09		0.08	0.10	74%	
53	あきる野市館谷	駐車場	砂利	0.09		0.08	0.10	76%	
54	あきる野市館谷	駅前ロータリー	植え込み	0.09		0.07	0.09	57%	
55	福生市熊川	拝島駅北口	砂利	0.08		0.08	0.14	90%	
56	昭島市松原4丁目	拝島駅南口	アスファルト上	0.08		0.06	0.09	54%	
57	府中市片町2丁目	分倍河原駅前	歩道	0.09		0.07	0.09	67%	
58	調布市	つつじヶ丘駅南	民家駐車場砂利	0.07		0.06	0.07	78%	
59	世田谷区松原2丁目	駐車場	アスファルト上	0.09		0.06	0.07	41%	
60	杉並区和田3丁目	蚕糸の森	グランド中央部	0.07		0.04	0.04	0%	
61	葛飾区東金町8-24	ポンプ場出入口	土壌上	0.37	1.14	0.38	1.50	103%	133%

**測定者** 日本共産党都議団  
**測定器** ALOKA PDR-101型 ポケットサーベイメーター  
**測定方法** 2011年5月は、表示数値を10秒間隔で10回読み取り平均値を算出した。  
 2012年5月は、AEMモードで1分間計測（積算計数値を経過時間で割り算）  
**数値単位**  $\mu\text{Sv/h}$   
**減衰度** (現在の放射線量-0.04) / (1年前の放射線量-0.04)  
 自然放射線量を0.04  $\mu\text{Sv/h}$ とした

住所	備考	空間線量(1m高/5cm高)				減衰率(%)	
		2011年8月		2012年6月		1m高	5cm高
江戸川区A園	園庭中央部	0.09	0.12	0.07	0.09	60.0%	62.5%
	入口植込み内		0.18		0.14		71.4%
	出入口側溝フタ上部		0.34			*昨年調査時に除染	
	上記部を清掃後		0.21	0.11	0.16		70.6%
江戸川区B園	園庭中央	0.13	0.17	0.08	0.10	44.4%	46.2%
	ジャングルジム下		0.31		0.12		29.6%
	園出入口側溝蓋		0.29		0.1		24.0%
	非常用すべり台下	0.25		0.10	0.13	28.6%	
	出入口土を入れた所		0.66		0.2		25.8%
葛飾区C園	園庭中央	0.11	0.17	0.09	0.1	71.4%	46.2%
	園庭の隅		0.19				
	園庭隅の花壇	0.2	0.42	0.12	0.14	50.0%	26.3%
	砂場	0.15	0.17	0.11	0.11	63.6%	53.8%
	階段下	0.16	1.35	0.09	0.09	41.7%	3.8%
葛飾区D園	階段下植込み		1.08	0.1	0.4		34.6%
	砂場中央部	0.11	0.10	0.08	0.09	57.1%	83.3%
	すべり台下砂場		0.33			*昨年調査時に除染	
	同上表面5cm程度除去後		0.16		0.09		41.7%
	屋上隅	0.15	0.26	0.10	0.17	54.5%	59.1%

**測定者** 日本共産党都議団  
**測定器** ALOKA PDR-101型 ポケットサーベイメーター  
**測定方法** 2011年8月は、表示数値を10秒間隔で10回読み取り平均値を算出した。  
 2012年5月は、AEMモードで1分間計測(積算計数値を経過時間で割り算)  
**数値単位** μSv/h  
**減衰度** (現在の放射線量 - 0.04) / (1年前の放射線量 - 0.04)  
 自然放射線量を0.04 μSv/hとした

## コメント

日本共産党東京都議会議員団が、継続して取り組んでいる。都内のほぼ全域を対象とした空間線量率と土壌の放射性核種(セシウム 134+137)濃度について、最新の結果が出ました。

この1年間に若干の減衰はありましたが、それでも今なお臨海部や東部地域の広い範囲で、1 キログラム当たり数万ベクレルという汚染スポットの散在が確かめられたことは、学術的にも貴重なデータです。言うまでもなく、この値は低レベル放射性廃棄物の事故前の処理基準を大幅に上回るばかりか、事故後の、廃棄物処分場での暫定受け入れ基準、1 キログラム当たり 8,000 ベクレルをも遙かに超えています。

今回確かめられた汚染スポットは、誰もが行き交う場所にあるものも多く、公衆の被曝線量を極力抑えるという見地からは、繰り返し述べているように、行政の早急な対応を望んでやみません。

特に、今回東京都はオリンピック招致に名乗りを上げました。広報の基礎データには、長所・利点を歌い上げるだけではなく、首都直下地震の危険度評価等に加えて、東京とその近郊が、福島原発事故による放射能汚染を蒙っているという明白な事実も、包み隠さずに示すべきだと考えます。外国からの選手や観客が、そのような事実を知った上でなお東京を選んでくれるかどうかを、率直に問いかけること—それこそがフェアプレーの精神に叶うことではありませんか？

2012年6月8日

日本科学者会議災害問題研究委員会・委員

坂巻幸雄